

《開催概要》

■開催日時

令和6年3月19日（火） 午後5時から午後6時40分まで

■開催場所

さいたま市市民活動サポートセンター 北ラウンジ

■出席者名

委員

堀和光二郎、川名紀子、上田孝彦、山本大介、高橋司、佐々木弘、花島敏夫、大竹秀幸、朝霧紀美江、島田正次、福島康仁、丸屋美智代、林勇

事務局

浅見有、橘一郎、三上悠生

■欠席者名

清宮輝雄、小島文一、武井佳美、石田晶義

■議題及び公開又は非公開の別

議題

- ・市民活動サポートセンターの団体登録について
- ・相談対応記録について

公開又は非公開の別

公開

■傍聴者の数

0名

■審議した内容

- ・市民活動サポートセンター運営協議会（第4期）の意見等に対する取組について
- ・相談対応記録について

■問合せ先

さいたま市 市民局 市民生活部 市民協働推進課 電話番号：813-6403

■次第

1 開会

2 議事

- (1) 市民活動サポートセンター運営協議会（第4期）の意見等に対する取組について
- (2) 相談対応記録について

3 報告

- (1) 実施事業について

4 閉会

《会議録本文》

1 開会

座長： 本日も年度末でお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。また、今期委員の皆様は、本日が最後の委員会となりますのでどうぞよろしくをお願いします。

はじめに、事務局から本日の出欠状況と傍聴希望者の報告をお願いいたします。

事務局： はい。本日の出欠状況ですが、清宮委員、石田委員、武井委員の3名より欠席の連絡を受けております。また、小島委員が遅れていますが、会議の方は進めさせていただきたいと思いません。

また、傍聴希望者はお見えになっておりません。しかしながら、本日の会議では不開示情報に当たる個人情報等の取り扱いもありませんので、公開とすることとしてよろしいでしょうか。

座長： それでは、現在のところ傍聴希望者がおりませんが、会議の途中からの傍聴につきましても、会議運営上問題がない限り随時許可していきたいと思います。

続いて、事務局より会議資料の確認をお願いいたします。

事務局： それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。資料は事前に郵送させていただいておりますが、お持ちいただいておりますでしょうか。確認させていただきます。

まず「次第」、次に「委員名簿」、続きまして、資料1「さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会計画（第4期）の意見等に対する取り組み」、資料2「相談対応記録」、資料3「実施事業について」、最後に資料4、「さいたま市市民活動サポートセンター利用状況」となります。

また、本日の配付資料として、「市民活動サポートセンターフェスティバルの開催状況」といたしまして、先日行われた市民活動サポートセンターフェスティバル当日のパンフレットと記録写真をお配りさせていただきましたので、よろしくをお願いいたします。

本日の資料は以上となります。過不足等がございましたら、手を挙げていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

2 議事

(1) 市民活動サポートセンター運営協議会（第4期）の意見等に対する取組について

座長： それでは、早速議事の方に入ってまいりたいと思います。

議事の(1)ですが、「市民活動サポートセンター運営協議会（第4期）の意見に対する取組」ということでございまして、皆様方にお出しいただいた様々なご意見について、サポートセンターとしてどのように対応したのかということについての資料であります。それでは、事務局から説明をお願いいたします。

事務局： それでは、「市民活動サポートセンター運営協議会（第4期）の意見に対する取組」について説明させていただきます。

まず、この運営協議会についてですが、市民活動サポートセンターの管理運営を効果的かつ効率的に行うための意見交換を行う場として設けておりまして、各区の市民活動ネットワークの登録団体の皆様をはじめ、有識者の方々にお集まりいただいております。また、委員の任期

は2年と定められており、本日は最後の協議会となることから、委員の皆様からいただいたご意見等に対し、どのように意見を反映し、取り組んできたかをまとめさせていただきました。2年間を振り返るとともに、取り組みに対するご意見等をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1をご覧ください。資料の左上段から中央にかけては、皆様からいただいたご意見等を年度別、テーマ別にまとめさせていただきました。令和4年度は、市民活動の現状と課題をはじめ、市民活動支援事業についてのご意見や、事務の簡素化に向け、団体ロッカー等の手続きについてご意見を伺いました。令和5年度は、市民活動における共通の課題である担い手の育成について、またマッチングについて、活発なご意見をいただきました。すべてのご意見を記載したいところですが、類似のご意見はまとめさせていただくとともに、市民活動に取り組まれている皆様の貴重な経験談、体験談等は割愛させていただきましたことをご了承いただきたいと思います。なお、いただいたご意見の中には引き続きの検討課題とさせていただいているご意見も記載しておりますので、すべてのご意見が反映されているものではございません。

続きまして、資料右側から下段にかけて、ご意見を反映する取り組み事業等を、市民活動サポートセンターの業務を元にまとめさせていただきました。まず、管理運営全般ですが、他の項目と重なる部分もございしますが、貸出機材の運用、担い手育成の取り組み及びその他、相談対応記録等においてPR不足のご意見を多々いただき、これから市民活動に興味のある方、これから始めようとしている方の支援に対してのご意見を踏まえ、市民活動に親しみやすいよう、またサポートセンターの基本理念の1つである、「集まりやすく、居心地の良いセンター」を踏まえ、統一感のある案内表示に改め直し、「NPO・市民活動って何」と題して市民活動についての説明を行いました。

次に、交流事業、イベントですけれども、活動紹介イベントにおいて多くの新規団体を増やすことを目的にテーマを七夕から夏祭りに変更し実施するとともに、サポートセンター館内での各種PRでいただいたモニターの活用をヒントに、動画による紹介と、来場者が持ち帰ることのできる団体紹介リーフレットを作成いたしました。

次に相談業務ですが、相談業務の充実については機会があるごとにご意見をいただき、職員のスキルアップはもとより、相談対応記録を活用する等、継続的な相談支援を行っております。なお、サポートセンター職員は記載の通り、「知らない・わからない」を言わない対応を心がけて相談業務に取り組んでおります。

次に、左下にいきまして、情報発信についてですが、PR不足やSNSの活用について多くのご意見をいただきましたことから、ホームページの充実、セミナーの講座内容やイベントのライブ配信等を、YouTubeを活用して発信し、さらに昨年11月にX、旧Twitterによる情報発信を始めたところです。資料にQRコードを掲載しておりますので、委員の皆様も改めてご覧いただければと思います。なお、このQRコードの活用に関してもご意見をいただき、各種周知の際に紙面では掲載しきれない情報などについては、ホームページ等へ導くためのツールとして活用しているところでございます。

最後に、セミナーについてですが、テーマや内容について、皆様のご意見や、ニーズを把握

し実施してまいりました。今後は対象者を明確にする等、いただいたご意見を参考に取り組んでまいります。

以上が、これまでにいただいたご意見に対する主な取組となりますが、他にもサポートセンターの管理運営及び実施事業の計画立案の際に、ご意見を参考とさせていただいております。

また、冒頭にも申し上げましたが、すべてのご意見を反映できているわけではございませんので、貸出機材の運用におけるニーズ調査の必要性、市民活動の担い手の育成では、市民活動団体と自治会の連携、またオンライン化の導入促進とその弊害等については、引き続き検討課題として取り組んで参りたいと考えております。

説明は以上となります。委員の皆様には取り組み事業に対するご意見をはじめ、今後のサポートセンターに対するご意見等をお聞かせいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

座長： はい。ありがとうございます。はい。皆様方から出された意見をまとめていただいたということで、共通項目をわかりやすくまとめていただいたということでもあります。そして、それに対してサポートセンターが具体的にどのような取組をしているのかということと、とりわけ特徴のあるものをだと思いますが、写真を入れてイメージが湧きやすいようにまとめていただいたということでありまして、非常にわかりやすい資料になっていると思います。委員の皆様方から何かご意見、ご質問はございますか。

高橋： 高橋です。令和5年度の中で市民活動と自治会の連携とあるのですが、これに対してどうだったのかなという確認をさせていただければと思います。

座長： それでは、事務局お願いいたします。

事務局： 市民活動団体と自治会の連携においては、様々な地域課題が共通する上で連携を図ることは非常に大切だというようなご意見をいただきました。これについては、引き続きの検討課題ということで、今ご説明をさせていただいたところですけれども、サポートセンターといたしましては、自治会は当然市民活動団体ということで、今年行ったというわけではありませんが、自治会との連携を図るという上で、各区にセミナーで出向いて行った際に、各区のコミュニティ課をお願いをして、自治会の方にセミナーの周知、案内を出していただいて、お集まりいただきたいというような取組等をしました。今後はさらなる連携を図るためにもセミナーやイベントを検討していかなくてはならないかと思っています。

高橋： ありがとうございます。

座長： いかがでしょう。他にございますか。

島田： はい。この問題について、以前と違って徐々に地域のコミュニティ課もこういうものについて非常によく受け入れて、いろんな団体にそういう情報を提供しているのかなと思っています。

ここはまた場所が近くていいところなので、こういう活動が進めばいいなと思っています。やっぱり自治会として、こういう綺麗なところで行えることは魅力なのかなと思っています。また、さっき言ったように、区も非常に幅広く柔軟な姿勢になってきているのかなと思っています。私もこの間の活動の中で、問い合わせがきたのですけれども、コミュニティ課なり区役所の広場、駐車場を土日に貸し出す等、色々取り組んでいますので、サポートセンターも然り、段々そういう風になってきているのかなと思っています。以前はガードが固かったのですけれども、

そういう傾向に来ているということは良いことじゃないかなと思います。

事務局： はい。島田委員にご意見いただきまして、先ほど高橋委員からもご質問がありましたけれども、連携というところでは、現在さいたま市では自治会の電子回覧版等の取り組みもしておりますので、そういった際、自治会にそういうものを取り入れていただくためにはスキルの問題があることから、そういう分野において職員や市民活動団体が教える、お手伝いするというようなマッチングも行政としてお手伝いできないかということも模索しておりましたので、個別具体的にになりますが、そういったマッチングができれば良いのではないかと考えております。

座長： はい。ありがとうございます。他はいかがでしょう。

朝霧： はい。今年岩槻の自治会長をやりました、自治会が無くなっていく中で、自治会を作らしようという活動を始めました。実績として、地域のごみのネットが道にバサッと引っ掛けられていたので、それをグルグルと丸めてかけるようにしたものを町内に15ヶ所作りました。そしてそれをコミュニティ課に報告しましたら、Twitterで自治会の活動として載せましようということで、一部載せていただいて、他の自治会が見て、いいなと思ってくれるところがあって、町並みを綺麗にするきっかけができたかなとちょっと思いました。他の自治会にお知らせする手だてができて嬉しかったです。

座長： ありがとうございます。他にございますか。

今皆様方からご意見がありましたように、このNPO、市民活動団体と自治会は、まちを良くするという目的は一緒なのですが、なかなか連携が取れてないところがございます。それが、少しずつ連携が始まり相互に乗り入れができるようになってきたということが皆様方のお話から分かりました。

自治会も、加入率がどこの町でもどんどん下がってきているということがあり、自治会というものがなかなか市民から見えていそうで見えていないというところで、若い人が入ってこないということもあります。ですので、そういう連携を通してお互いにまちづくりのために上手く機能していくと今後良いのかなと思います。

その中で、やはりこの市民活動サポートセンターのようなものが大きな役割を果たしてくるだろうということですし、先ほど事務局からもありましたが、事務局としても努力をしているということで、行政がそれを取り持つていくことで、先ほど朝霧委員の話の中にもありました、コミュニティ課がいろんな協力をする等、三者が上手く連携していくと今後さいたま市の発展に大きく寄与すると思います。

そういう意味で市民活動サポートセンターのあり方について皆様方から色々この管理運営について、活動を支えるためにどうすれば効果的なセンターになるのか、より効率的になるにはどうしたらいいのかという意見交換をこの第4期に十分できたのではないかなと私自身は感じているところです。

急には変わりませんが、少しずつ変わってきているということで、その変わりようも少しずつと言いつつも、かなり驚くべきといいますか、目に見えて変化しているということで非常にいい議論ができたと思っております。引き続き、皆様方には委員を卒業しても、さらなるご協力を賜ればと思います。

(2) 相談対応記録について

座長： それでは、議事(1)はこれで終わりにいたしまして、次に、相談対応記録(2)のところにいきます。では、事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは、相談対応記録についてご説明させていただきます。

今回の対応記録については、前回の協議会以降の令和5年12月分及び令和6年1月分となります。資料1ページをご覧ください。令和5年度、12月分となりますが、件数は17件となります。部分的には、(6)の「印刷・PC」に関する事項が一番多く、印刷機やパソコンの使い方に関する相談が主なものとなっております。

資料5ページをお開きください。一番上のNo.15に「紹介希望」の相談対応がございます。本件はメールによる相談対応となります。セカンドキャリアにおける事業化についての問い合わせでしたが、キャリアに関することであったことから、同じフロアにあります、セカンドライフ支援センター・とらいふに相談し、関係機関を紹介させていただきました。また、関連するサポセン事業も紹介させていただいたところです。このように、関係機関との連携を図るとともに、必要と思われる情報提供を積極的に行う等、相談業務に取り組んでおります。

1枚めくっていただき、資料6ページをお開きいただきたいと思います。次に令和6年1月分となりますが、件数としましては、24件となります。分類的には、「紹介希望」及び(4)の「情報提供」がともに6件と、次いで(3)の「サポセン」に関するものが5件となっております。団体紹介希望が増えている要因は、コロナ禍が収束した中で、市民活動への参加意欲が高まりつつあるのではないかと感じております。市民活動の裾野を広げ、活性化を図る上でも、できる限り希望に沿った団体を紹介できるように取り組んでまいります。

それでは、7ページをご覧ください。No.5の団体の紹介についてですが、去る12月の相談後の新たな相談内容となっております。団体を紹介した報告を受けるとともに、今後実施する活動の際に募金活動が可能かどうかのご相談でした。先ほどの議事(1)でもご説明させていただきましたが、継続的な相談支援、取り組み、相談業務の充実が少しずつではありますが、図られてきているものと考えております。

資料を1ページおめくりいただいて、8ページをお開きください。No.7になります。子供の一時的な預かりのご依頼がございました。内容は記載の通り、お子様を連れた保護者の方が体調を崩されたため、一時的にお子様のお世話をさせていただいた事例となっております。相談対応とは異なるかもしれませんが、ご報告をさせていただきます。現在、地震等、自然災害も頻発しておりますことから、有事の際などの対応についても、職員相互の情報を共有し、適切な対応を図ってまいりたいと思います。

最後に、利用者懇談会のご報告ですけれども、去る2月21日に開催する旨周知いたしましたが、残念ながら参加者がおりませんでしたので、ご報告させていただきます。

説明は以上となります。ただいまご紹介させていただきました相談対応に限らず、疑問や質問、また改善点等ございましたら仰っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

座長： ありがとうございます。毎回この相談対応記録というものが出来まして、会を重ねるごとに非常にわかりやすく整理されていると思いますが、今のご説明、或いはご覧いただきま

して何かご意見やご質問があればと思いますのでご意見、或いは質問を出していただければ問題提起でも結構です。先ほどは高橋委員から問題提起があって、それから議論ができました。

高 橋： よろしいでしょうか。

座 長： それでは高橋委員お願いします。

高 橋： 印刷オウエンジャーとして地域 ICT クラブさくらとサポセンさんで共有しながらやらせてもらっているのですが、印刷に関する問い合わせもかなりあるように思います。その効果というのは見えているのでしょうか。

事務局： はい。申し訳ございません。資料の 4 ページをご覧くださいなのですが、No.13 が印刷オウエンジャーについてということで、印刷オウエンジャーの利用について、また教わりたいというようなご相談になっています。このような形で印刷オウエンジャーに適切に対応していただいているということで、再度のご利用をいただいているということを伺っております。また、ここにも書いてありますが、任務日を館内で周知する等、この日はおりますのでご相談ください、ご利用くださいとご案内をさせていただいておりますので、今後ますますご相談があるのかなと期待しているところでございます。

高 橋： ありがとうございます。

座 長： 他はいかがでしょう。ご覧いただきますと、サポートセンターで丁寧なご対応をいただいているというのがお分かりになるかと思えます。

特に皆様方からご意見をいただいたことに対して、かなり真摯な対応されているなというのがこの記録から見えてまいります。先ほど、事務局からとりわけ紹介について、それを中心に説明がありましたけれども、このマッチング機能というのが非常に重要であるということで、このサポセンというのが単なる箱ではなく、上手く団体を結びつける役割をしているということが成果として出ているということでありました。

何かお気づきの点があればご発言いただければと思いますが、特になければ後でも構いませんのでご発言いただければと思います。

3 報告

(1) 実施事業について

座 長： それでは次にまいりたいと思います。次は、3 の「(1) 実施事業について」というところでございます。それでは、事務局よりご報告をお願いいたします。

事務局： それでは、次第 3 「(1) 実施事業について」を説明させていただきます。

資料 3 をご覧ください。まず、「クリスマス飾り de 活動紹介パネル展」についてですが、7 月に実施した、夏まつり飾りで活動紹介パネル展の冬バージョンとして実施したものとなります。展示期間は 11 月 23 日から 12 月 25 日まで行い、夏に引き続きモニターを活用し、団体紹介を行うとともに、リーフレットを作成しました。作成したリーフレットは 330 部ほど持ち帰られるなど、団体 PR の一助になったものと思えます。また、アンケートにおいては参加団体と来場された方でそれぞれ行いましたが、内容については「大変良い」、「良い」との結果をいただいております。この活動紹介パネル展につきましても、開催時期とともにテーマを検討しつつ、引き続き実施していただきたいと考えております。

それでは資料4ページをお開きいただきたいと思います。次に10月2日にサポセンで開催いたしました、「市民活動応援塾～市民活動設立に向けた講座～」についてですが、これから市民活動団体を設立しようと考えている方々を対象に開催いたしました。内容は二部構成で、団体の立ち上げの準備から任命についてお話をいただきました。アンケートにもありますが、具体的な活動事例による説明が参考になっていることから、今後も可能な限り、市民活動の実践者による体験談などを交えながらのセミナーを企画していきたいと考えています。

資料7ページをお開きください。次に、1月30日に開催したボランティア・NPO講座『『市民活動と地域のかかわりを学ぶセミナー』～地域の未来と協働の役割を考える～』についてですが、本日ご欠席しております、武井委員の所属している公益財団法人いきいき埼玉理事長の永沢氏を講師にお招きし、講演会、交流会を開催いたしました。講演会では、市民活動とは、市民活動を継続するためには、仲間を増やすためには等について、分かり易くお話をさせていただきました。これまで、多くの参加者による講演会はコロナの影響等により控えさせていただいておりましたが、今後はこのようなセミナーを開催してまいりたいと考えております。

資料10ページをお開きください。次に、『「シニア共助担い手塾」～地域デビューしてみませんか～』についてですが、こちらも2月12日にサポセンにて開催いたしました。50歳以上で、地域活動を始めようと考えている方を対象に募集したところ、27名の参加がありました。そのうち6名は当日サポセンに訪れた方が飛び込みで参加されました。募集人員や講座の内容にもよりますが、このように参加を希望される方には、臨機に対応していきたいと思っております。内容は三部構成で実施し、相談コーナーでは参加団体との交流が図られ、団体の活動見学へと繋がる等の目的を果たすことができたものと考えております。

このように、これから市民活動を始めようとしている方、興味のある方々に対しましては、団体を紹介して終わりではなく、次の1歩を踏み出すきっかけづくり、今で言いますと、活動見学や、お試しの参加等を意識して取り組んでまいりたいと思っております。

続きまして、3月2日、3日に開催した市民活動サポートセンターフェスティバルについてご報告させていただきたいと思います。報告書等の資料はございませんが、本日お手元に当日配布いたしました、パンフレットと記録写真をお配りさせていただきましたので、ご覧になりながらお聞きいただければと思います。

サポートセンターフェスティバルはコロナ禍に休止となり、令和3年度にオンラインで開催し、昨年度から対面で開催しておりますが、市民活動団体のPRの場として、また、市民活動団体相互の交流、さらには市民活動への参加を促進することを目的に開催しております。参加団体ですが、昨年を1団体上回る45団体の参加をいただきました。参加団体の他、記録写真の左上にもございますけれども、アートフラッグの作成に市内の小中学校、謎解きラリーの実施に当たりましては浦和大学、また、運営全般のお手伝いとして日本大学の学生さん等にもご協力をいただきました。

来場者数ですが、2日の土曜日が2333人、翌3日の日曜日が2725人と、5000人を超える来場をいただきました。コロナ前の来場者には及びませんでしたが、昨年度に比べて1000人以上の増となっております。また、小・中学生によるアートフラッグの作成や、謎解きラリーの実施等から、昨年度以上のお子様連れの来場が多く感じられました。

また、2日間ステージ発表等をY o u T u b eでライブ配信を行いました。2日間で314回の視聴がありました。参加団体によるアンケートでは、「団体の活動PRを伝えられた」、「多くの人に伝えられた」、「伝えられた」の割合は94%と高く、他団体や代表者との交流については、「交流できた」とのお答えを82%、他団体とのマッチングについては、「今後に期待できる出会いがあった」と6割の回答をいただき、市民活動団体相互の交流や、親睦の輪を広げることができた2日間になったものと考えております。

次年度以降におきましても、さらに会場に足を運んでいただけるよう企画、周知について検討してまいりたいと思います。以上です。

- 座 長： ありがとうございます。報告ということでございますが、こちらの事業報告につきまして、何かご意見やご質問はありますか。
- 川 名： 今年初めてフェスティバルを見させていただきまして、皆さんが和やかに参加されていることに驚きました。ステージの所はどんな感じかと思ったのですが、思っていたよりも広く、様々なサークルも参加されていて、こういう風で開催されていたことを改めて知りました。
- 座 長： ありがとうございます。5000名も参加をされたというのは非常に素晴らしい成果だと思います。
- 堀 和： 一応実行委員をやらせていただいたのですが、とても去年から今年に比べてどんどん良くなっているなと思いました。今言われたようにステージの位置を変えて団体さんのブースが向いて並んでいて、来場者の方も見ようとなったのかなと思います。来年またどんどん良くなっていくのではないかなという期待をしています。ありがとうございました。
- 座 長： ありがとうございます。他はいかがでしょう。
- 山 本： よかったかなと思います。初めて参加して、昔あそびというところで新聞紙の兜を折りましたが、その折り方を思い出せなくて、そしたらこうやって折るんだよと兜を教えてくれ、他にも紙鉄砲の作り方などを教えていて、本当にいい催しだと思います。
- 座 長： 佐々木委員どうぞ。
- 佐々木： はい。1階の広場は正解だったと思います。団体さんの作品やグッズの販売をもう少し拡大すると良いと思いました。買う気に来ている人が結構いたので、紹介展示だけじゃなくて、来た人がある程度の物を購入しながら、団体がしていることを知ってもらう場面がもう少しあったらよかったなと思います。
- 一番すごかったのは13集会室でやっていた野外調査だと思います。集会室に化石からなにから石を並べていて、よくぞここまで発見したなと思いました。ああいう突出した、目玉になるような団体の展示は大事にした方がいいかなと思いました。全体的にはよかったなと思います。以上です。
- 座 長： ありがとうございます。他はいかがでしょう。高橋委員どうぞ。
- 高 橋： 報告ですけれども、ステージの隣で来ていただいた方にロボットを動かしていただいたのですが、非常に喜んでいただけました。その右隣にはビスケットプログラミングという、タブレットで子供たちが遊ぶというところがありました。
- パネルの方にはシニアPCサロン西堀の活動報告があり、どんな活動しているのかという掲示をさせていただきました。そしたら、このサポセンさんでパソコングループとして活動して

いる方々が、パソコンの先生方の高齢化が進み、パソコンサークルとして成り立たなくなるといことで、講師としてきてくれないかという要請がありました。4月から私どもの方で対応させていただくということになりました。一応報告だけさせていただきます。

座長： はい。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。皆様方のお話を聞いても、サポセンフェスティバルがかなり上手くいっているといことで、来年も人数が増えるのではないかなと感じました。事業もサポセンでやられていて、こちらの方もフェスティバルに繋がるような活動をしているといことがお分かりになったかなといところでもあります。

NPO活動や市民活動、或いは自治会の活動もそうですが、なかなかこう目に見えないといか、実際どういものなのかわからないといところを具体化しているのがこれらの講座やフェスティバルですね。

最近私もChatGPTといものを使い出して、どう活用すればいいのかが難しいのですが、本を買ってそうい使い方があるといのが分かりますので、まさにフェスティバルのようNPOがどうい活動して、どうい効果があるのかが目に見えることが非常に重要であるといことを、皆様方のお話を聞いて思いました。かつ、その活動を子供たちにうまく見せるような仕掛けも増えてきていて、先ほど山本委員から童心に帰ったといお話がありました。色々な方が楽しく活動している姿を子供に見せるといのが、まちが生き生きしていくとい意味で非常に重要だと思ひます。お祭りといことで、お祭りは参加して楽しまないといけません。まさに皆様方のご意見からよくそうい効果が出ているなと感じたところ。そして、来年はさらに盛り上がると良いなと感じています。

4 閉会

座長： それでは次にいきたいと思ひます。報告が終わりましたので、議事としてはこれで終わりといことになります。会議の冒頭で申し上げましたように、本運営協議会の今期の委員の任期が令和6年の3月31日となっており、残り約10日で任期満了といことで、本日の会議が最後となります。そこで、任期が終わるときに毎回委員の皆様からこれまでを振り返っての感想、或いはサポートセンターに対する期待をお話しいただくといことが恒例となっております。今までの議論等で先ほど言い忘れていたといことも含めて、一言ずつお話をいただければと思ひます。

それでは、丸屋委員から反時計回りでお願いできればと思ひます。よろしくお願ひします。

丸屋： 丸屋です。コロナの影響がある状況から、令和5年度に5類になり、様々なことが変わっていく中で、対面で会うといことが制限されている状況から、今回のサポートセンターフェスティバルのよう、人が集まってフェスティバルが開催できるといところまでの中で、実際に活動をされている方からのお話といのは非常に具体的でした。私自身は行政の人間で、自分自身が活動している訳ではないもの。ですから、具体的なお話やご意見も含めて、自分としては非常に勉強をさせていただいて、それをどう活かしたらいいのかを考えられる時間になったことをとても感謝しています。本当にありがとうございました。

座長： ありがとうございます。それでは林委員どうぞ。

林： 市民活動サポートセンターの林と申します。大変お世話になりました。昨年4月に配属にな

りまして、右も左もわからない状況でしたが、こちらの運営協議会、それから様々な会議や要望等を受けまして、どういう風に事業に反映させていけばいいのか、施設の管理運営にどういう風に反映させていけばいいのかということを職員で様々な協議をして、集大成としてこちらのサポートセンターフェスティバルを行わせていただき、多くの方に来ていただいて、少しずつではありますが良くなってきていることを実感しております。

今後においても皆様の意見、利用者の意見をお聞きさせていただいて、さらにより良いサポートセンターを目指していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

座長： はい。ありがとうございます。それでは堀和委員お願いいたします。

堀和： 堀和と申します。私はさいたまNPOセンターというところが指定管理で受けている時からこのサポートセンターに職員として関わってきて、それが今度は市の直営になり、毎年1年ごとに業者さんが変わるようになりました。窓口業務をさせていただいて、それで終わったと思っていたら、運営協議会委員として2年間やらせていただきました。

私は川口に住んでいるので、川口の方にこれから重点を置いていくのかなと思います。それから去年から民生委員というものをやらせていただくことになったので、お年寄りと接する時間がかかなり多いです。私自身もう73なので、これから何もできないなんて思っている中で、私が目指してきたのは、自分のボランティア活動と伴走型支援です。

活動される団体さんと一緒になって支援するというもので、一緒になりすぎて何団体か活動と一緒にやるようなこともしているのですが、これからけりがついて、自分がどうやって生きていくのかなという、自分の生き方をこれからどうしていくのかということをしごく最近では考えております。

さいたま市って凄いなと最近つくづく思います。川口と埼玉の橋渡しになればいいなと思っていましたけど、やっぱりさいたま市って凄いなと思います。これからどうなっていくのだろうと思いつつ、これで終わらせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

座長： 続いては川名委員お願いいたします。

川名： ククウェチカという名前で活動している登録グループの1人です。2年前に区役所の方に、10区の代表の方が集まる会議に出ていただけませんかと言われて、頼まれるとすぐに乗ってしまうものですから伺ってきたもので、実は皆様の話にあまりついていけなくて、普段はおしゃべりなのですが、この会議ではいつも寡黙な川名でございました。申し訳ありませんでした。

最終的に、この間サポートセンターフェスティバルを見せていただいたことが良かったと思います、何となく集大成を見せていただいたような気がします。

ククウェチカというのは、ポーランド語で鳥のカッコウの意味なのですが、そういう小さな団体から出ている者なので、ここに来て皆さんそれぞれ自治体の代表の方や、大きな団体を背負っている方がいらっしゃるので、なかなか話についていけなくて大変な思いをしましたが、私は代表として出てくださいと言われてたのだから、私ができることはお答えすることができればいいなと思い直して今日までできました。本当に皆様ありがとうございます。

座長： それでは上田委員お願いいたします。

上田： 私はカウンセリングの理論の講座を開いたりする活動をしています。正直言いまして、この

サポートセンターの運営協議会で何をやればいいのかわからないで 2 年間過ぎてしまいました。コロナの関係で私たちがやっております講座、ワークショップもほとんど人が集まらないという状態が今年も続いております。その前までは講座を開くと、10 名とか 15 名の方に受講していただいて、やりがいもあったのですが、この 2、3 年は来ても 2、3 名、少ない時は 0。中止せざるを得ないという状況が続いておまして、とても考えられるような状態じゃない中で過ごしてしまいました。

座 長： はい。それでは山本委員お願いいたします。

山 本： 2 年前に、ここで皆さんに初めてお目にかかった時、皆さんが仰っていたと思いますけれども、何をすればいいのか、どんな課題があるのかということ、どうしても最初は自分の物差しで対応しようとしてもギャップがどうしても出ました。それが、回を重ねるうちに皆さんのご意見を伺っていて、こういう風にしていくのだなと思いました。今まで私自身が経験したことのないような世界のことが多かったかなと思います。

やっぱりパブリックサービスという、公共的なサービスを提供する施設として、皆さんが真剣に議論されていて、自分自身もすごく勉強になりました。本当に 2 年間ありがとうございました。

座 長： それでは高橋委員お願いします。

高 橋： はい。皆様と同じように私も当初は全く分からず、桜区から来ていますけど桜区とサポセンとをどう繋ぐのか全く分かりませんでした。ここに参加させていただいて、サポセンさんからいろいろお話を伺い、要請をし、そこに答えていただくということで、少しずつ拠点をサポセンさんの方に置いて定例会を開催するようになりました。内容は分かりませんが、人となりを少しずつ知ることができてきたなと思うので、これが次のステップに繋がっていければいいのかなと思います。

皆さんのお役に立つことができることではないのかなと思ったりしておりますが、まだまだ模索中ですので、あまり活動できないかもしれませんが、要請があれば運営協議会に来たいなと思います。この 2 年間お世話になりました。ありがとうございました。

座 長： はい。それでは佐々木委員、お願いいたします。

佐々木： はい。最初の 1 年ぐらは何をやっているのかよくわからなかったです。いろんな意見を聞きながら、皆さんの言うようにどういうことかということに気づいたのが 2 年目でした。年 4 回なので、そんなによく分からないですね。

今考えると、やっぱりここを使って地域とか団体とかを常に、継続的に仕掛ける、巻き込むってことを連綿としないとなかなか今回のようなフェスティバルのようなところまで持ち上がってこないのだろうなということを感じました。

昨年の 11 月ですかね、林館長の方から青少年育成会等にサポートセンターの各種事業、広報等の協力についてという依頼が回ってきていて、いわゆる自治会や、地域のそういう団体に活動しているところとサポートセンターの近接点をどこかに持つてくるということをしていました。

自治連のように、最初のテーマで出てきたような動きを機動的に一生懸命やっているところとくっついていくというようなことを続けると小学生が来たり、地域の P T A 活動をしている

人達が来たり、そういうようなところを手ぐすね引いて仕掛けること、巻き込むことを地道に継続的にやっていくということが大事だなと思います。それは自治会や自治連もそうですが、連綿と継続的にこういうことを行っていくというような仕掛けが良い方に変化していくのではないかという風を感じました。2年間ありがとうございました。

座長： それでは花島委員お願いします。

花島： はい。花島でございます。サポセンさんの非常に丁寧な対応がやっぱり素晴らしいと思います。

先ほども苦情というところが目に入ったのですが、苦情のうちに入らないご相談にも非常に上手く、優しく対応されていてお見事だと思います。ですから私もこれからまた色々な相談事があればこちらに相談に行くようにということで、ご紹介をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

座長： はい。それでは大竹委員、お願いします。

大竹： まず、私どもの活動の話に触れさせていただきたいのですが、がん患者さんとそのご家族のチャリティボランティア活動をしています。現市長が市長当選した年にスタートしまして、そのスタートの時から今年に至るまで私どもの活動の大概のことを伴走していただいています。ですから今年16期となります。全国に50ヶ所ぐらい同じ実行委員会があるのですが、さいたまは珍しく川越と所沢とさいたま3ヶ所ありまして、私が今、さいたまの代表をしているのですが、サポートセンターは月に1回ミーティングで利用しています。ロッカーとメールボックスもお借りしてまして、サポートセンターは本当に我々とは切っても切れない場所になっています。

先だってサポセンフェスが写真で紹介されていましたが、そこにも私どものブースが載っています。載っている写真に4名写っていて、そのうち1名が看護師で、残りの2名ががん経験者なのですが、サポセンフェスは、がん相談ができないでいて、こういう活動をしているということを知らないで来られる方が随分と居られて、その方に話を伺って医療のことであったり、経済的なことであったり色々なこととお話を聞けるということで本人にとっても私どもにとっても非常に実りあるサポセンフェスになりました。

全体的なこの2年の活動を振り返ると、例えばペーパーレスだとか、郵送を少しシンプルにするとか、デジタル化とか、Webを活用したり、リモートを活用したりということが1期2年でいきなりできることではないと思うのですが、何期もかけて少しずつ進めていって、一方でやはり紙は無くせないで、高齢の方にも伴走しながら両立した市が進めているDX推進に少しでも市民を巻き込んで活動できるようになればいいなという風にこの2年思っていました。

そういう話とは別に、お母さんがトイレに行くときに小さいお子さんをちょっと預かって欲しいというような報告もあって、ほのぼのとしまして、非常に良い活動だなと思いました。2年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

座長： はい。それでは朝霧委員お願いします。

朝霧： 岩槻には54の市民活動団体がありまして、私はさいたま市保健愛育会岩槻地区というところで自分たちが小さい赤ちゃんを育てるのに迷っているお母さんのお手伝いをしたり、子供と

付き合うことを楽しくしたりするとか、成長の記録のお手伝いということで始めていて、私たちの活動は保健センターといろいろ関わってお手伝いができて、活動がしやすかったんですけども、岩槻市からさいたま市になってから保健センターのお手伝いがほんの少しになって、自主事業を自分たちでやらなきゃならないことになってしまいまして、どういう風にしていいかということ迷ったときに市民活動団体のコミュニティ活動連絡協議会というのがあることに気が付いて、私たちの活動を知ってもらいましょうということでそこに入りました。

そうすると、全然違う会の人と知り合いになって、向こうの活動をやる時に応援に行ったりとかただ遊びに参加させてもらったりとかから、少し自分の活動をみんな認めてもらえたり、他の会の人手が足りない時にこういう活動をするのですが、手伝ってくれませんかという声がかかって、小さい子から高齢者まで関わることだから、自分たちも会議の活動も幅を広げて、大分関われるようになりました。

そんなところでこちらの会議に出てくださいという声がかかって、いつの間にか6年になりまして、きっとここに出たら岩槻を知ってもらえる機会があり、こちらの皆さんの考え方から少しでも役に立つことを持ち帰って、何か役に立てるのではないかと期待を込めて参加してきました。難しいことがたくさんあったのですが、やはり励みになりました。

岩槻のことをもっと知ってもらうためにはどうしたらいいのか考え、今回お別れの皆様にお知り合いにさせていただいたお印に人形の材料の1つで作ったハンガーをお渡ししました。ここで皆さんに色々な良い意見をいただいたので、地元に戻ってもまちづくりやコミュニティについて上手くいくようにやっていきたいと思います。

座長： はい。ありがとうございます。それでは島田委員お願いします。

島田： はい。お世話になりました。やはりサポセンというのは場所がいいので、いろいろ大きなことができるということで、今日の資料の中でも青少年の遊びとか、そういうものを学ぶところがあつたのかなと思っています。

やっぱり大人の感覚というのはちょっと狭いので、こういう皆さんの中で、前向きな活動を色々聞いたりして、非常に参考になりました。どうしても自治会は守りに入る傾向があるので、なかなか変わったことをするのは難しいのですが、ぜひそういう気持ちを出しながら、色々な団体の活動を見て参考にして諸団体にもアドバイスをできればなと思っています。いろいろお世話になりました。ありがとうございます。

座長： ありがとうございます。ご欠席の方もいらっしゃいますが、これで全員お話をいただいたところで、最後に私の挨拶をさせていただきます。

私も委員長として審議会を幾つか担当させていただいていますけれども、委員長として一番困ることは意見が出ないということ、あとは暴走者がどんどん出てくるということも最後までまらなくて困ることがあり、また、3つ目のパターンはこういう会の事務局は行政なのですが、市民の方の代表意識が高くて行政が責められるというパターンがありまして、この3つのパターンがこの会議では全くなくて、皆様方が紳士淑女ということで、非常に円滑な会議になったと思っています。

先ほど堀和委員から、川口市とさいたま市のかけ橋になるということがありましたけれども、実は私も川口市で委員をやっておりまして、そこではまさにNPO活動、或いは自治会の活動

等それを支えるような条例をどう運用するかという審議会がありまして、そんなこともやっております。そこでやはり当事者意識が非常にキーワードとなってきて、自治を上手くどう回していくのかという時に、いかに当事者意識を持つのかということがキーポイントになってくるという話が、常に出てまいります。まさにここでの議論というのは、このサポセンに集まって立場の違う団体とか団体自治会の方が集まって意見を出し合ったのではないかなと思いました。皆様方の意見の中で、私は役に立っていないのではないかと仰っていたかと思いますが、もう十分役に立っていて、いらっしゃるだけでも大きな成果だったのではないかなと思います。

そしてやはり、ここがお花で、ここから皆様が蜜蜂となって花粉を足につけて、自分の団体に帰っていただいて、またその団体から全く他のところに行って、どんどん花粉をあちらこちらにばらまいていただいて、自治の花を咲かせていただくという、重要な役割を担っていただければなと切に思います。そうすると、このさいたま市が自治で溢れて幸せな自治体になるのではないかなと思っているところでもあります。本当に2年間、お世話になりました。ありがとうございました。

それでは最後事務局からご挨拶も兼ねて一言いただければと思います。

事務局： 皆さん、本当に2年間ありがとうございました。このサポートセンターの方は設立の前から設立して今までの間、市民の方の意見を多く取り入れながら運営されてきた施設で、皆さんにサポートセンターを良くしていきたいというようなお考えを持って意見をさせていただいたことはとてもありがたく思っております。

また、それをもってサポートセンターの方でもできることはすぐに改善し、まだ改善できないところは継続して改善に向かって進んでいきたいという風に思っております。

私も2年目ということで、昨年こちらに来たときは、サポートセンターはとても閑散としていました。コロナの影響で、平成30年度ぐらいは皆様が予約を待っているぐらい利用されていたということを伺っていたのですが、私が来た時は、来たらすぐ使えて少し寂しい感じでした。令和5年度になって、コロナが5類になってから徐々に賑わいが生まれてきたかなというようなことも思っております、声が結構聞こえるなという実感ができるようになりました。ただ、まだまだサポートセンターを利用する方は少ないかなと思っているところでもあります。

場所がとても良いということもあるのですが、浦和区にあるということで、岩槻の方や西区の方といった、距離が遠い方についてはまだまだこちらをご利用いただいていないのかなという風に思います。

こちらの良さを皆さんから発信していただいて、どんどん使っていただけるようにし、サポートセンターフェスティバルも含め、そういったもので市民活動団体がこういう活動をしているということをもっと市民の皆さんに発信していけたらなという風に思います。

私どもの市民協働推進課でも独自でツイッター、今のXを開設しております。そういったところでも皆さんの市民活動をどんどん発信していけたらなという風に思っておりますし、サポートセンターの方でもXを昨年から始めておりますので、そういったところで、みんなで市民活動を盛り上げていきたいなという風に思っております。委員を辞められてからはもう意見ができないということではないので、何か気づいたことがありましたら、市民協働推進課もしくはサポートセンターにご意見をいただければありがたいと思っております。

2年間ありがとうございました。

事務局： 最後に事務連絡で、会議録の作成がございました。案を作成次第、皆様にご確認をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

座 長： はい。ありがとうございました。それでは、以上をもちまして令和5年度第4回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を閉会とさせていただきたいと思います。

今期で退任される方につきましては、長い間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。先ほど私がお挨拶をさせていただきましたように、引き続き市民活動を進めていただいて、またこのサポートセンターをご支援いただければ幸いです。それでは皆さん本当に長い間お疲れ様でした。ありがとうございました。